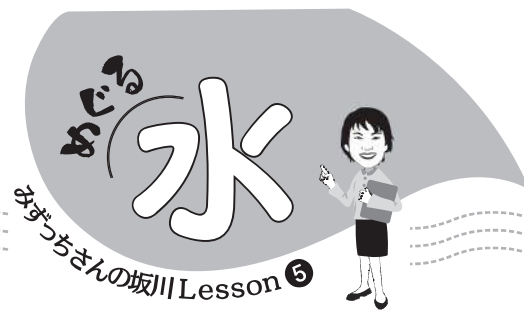


みずっちゃん●水田泰子
平成6年国土交通省関東地方整備局入省、江戸川河川事務所調査課水質調査係長。坂川に関する出前環境講座も依頼があれば行っている。3人の子供の母親の視点からも水について考える日々。松戸市在住。



いわゆる

坂川の源について

前回は、なんとか最初の掘りつき工事を行うことができたところまでお話ししましたね。しかし、下谷地区はその後もたびたび水に浸かりました。
2回目の掘りつき願ひ

そこで、さらに坂川を栗山村（現在の松戸市栗山）まで掘りつく計画を幕府に願ひ出しました。ただ、上流側の村々（上郷）と下流側の村々（下郷）の対立は激しくなり、死者が出るほどの争いもあつたようです。

この争いは話し合いでようやく解決し、坂川掘りつぎの約束を取り交わしました。上郷の負担は工事費だけでなく、維持修繕費、下流地域の人への補償金、争いでケガをした人への治療費、さらに幕府への献上米と、それはそれは大きなものでした。それでも、坂川の洪水をなくすことが重要だったのですね。

1836年、ようやく栗山村までの工事が終わり、これによって下谷地区の水はけが良くなり、米の収穫が増えるようになりました。

ふう…。壮絶な戦いでした。私の実家は、農家なので、小さいころはよく田畑の仕事を手伝いました。何日も手を掛けて育てた稲が、洪水であつという間に「全滅」してしまうことを想像する

坂川の治水工事を語る時、忘れてはならない人がいます。流山市と松戸市の子供たちは、小学4年で学習するので知っていますよね？ そう、渡辺庄左衛門です！

1871年に幕府へ坂川の改修を願ひ出たときの惣代（代表者）の1人で、鯨ヶ崎村（現在の流山市）の名主でした。祖父、父子の三代にわたつて庄左衛門を名のり、坂川掘りつきが完成するまでの56年間、坂川の治水に深く関わりました。

幕府への願ひ出や下郷の人たちとの話し合いを進め、また工事責任者でもあつたので、土木技術



■参考文献と写真提供：「下谷の歴史 干潟のゆくえ」（財新松戸郷土資料館）■坂川の歴史については、新松戸郷土資料館（現在は閉館）の元館長、大井弘好さんからご教授いただきました。

柳原排水機場



の習得や人足の手配、資金や資材の調達など、多岐にわたる指導者だつたようです。
庄左衛門のそうした業績は、流山市鯨ヶ崎東福寺境内の「坂川治水碑」に記されています。

しかし、明治期に入つても洪水による水害は続きました。そのため、江戸川の逆流を防止する目的で明治37年

木造の柳原水門に代わつてレンガ製の柳原水門が建設されました。
また明治42年には、松戸市樋野口に坂川の水を江戸川に排水するための樋野口排水機場が完成。これによって水害はほとんどなくなりま

こうして、明治時代の終

わり頃から下谷地区は「下谷三千石」と呼ばれ、献上米（天皇家にさしあげた米）ともなつた良質のもち米が生産されるようになりました。皮肉なことに、これは洪水によって利根川上流の砂質土が運ばれ、瘦せた黒土だつた坂川流域の田畑の土質が改良されて栄養のある赤土になつたためです。洪水にもプラスの面があるのですね。

昭和からの治水

下谷地区の水害を少なくする目的で、さらに開削されたのが「新坂川」です。この川が、台地に降つた水が下谷地区へ流入するのを防いでいるのです。月刊新松戸4月号の表紙にもなつています。幸谷駅から馬橋駅間（流山電鉄）は、春になると「桜と電車と新坂川の水面」がとても素敵です。

柳原水閘

レンガ製の柳原水閘は、現在でも見学できます。とても趣があり、当時の土木感覚、建築に対する思いは本当に素敵です。1995年「松戸市指定文化財」、2004年「土木学会選奨土木遺産」、2007年「近代化産業遺産」に選定されています。

白玉粉

大正時代、松戸にある会社が下谷地区で収穫された質の高いもち米を原料に白玉粉を作り、全国に販売しました。これが評判となり、その後、白玉粉は松戸の名産となりました。水でもどして、茹でるだけで、餅のような食材を手軽に作れる白玉粉は、今というファーストフードです！

暮らしの情報誌 (2014年8月1日 422号)

月刊新松戸



思い出の食卓

長江 靖子「三世代同居の昭和の食卓」

「ボストン美術館 ミレー展」招待券プレゼント

【不思議な事記】 渡山 兎 将
昔な臭い戦争の影が世界を覆っている。



本誌は読者のご協力により皆様にお届けしています

※ようちんぐり